

2025年度②

# 刑法

(全 2 ページ)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙・下書き用紙は、この冊子の中に折り込んであります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 解答は指定された範囲に記載すること。「書き終わり」をこえて記載した場合は、採点をしないことがあります。
5. 試験終了後、問題冊子・下書き用紙は持ち帰りなさい。

## 刑 法②

次の問題Ⅰ・Ⅱのうち1問を選択して解答しなさい。

解答用紙に選択した問題の番号を記入すること。

Ⅰ 次の【事例】を読み、甲および乙の罪責について、解答しなさい（特別法違反の点は除く）。

### 【事例】

- 1 乙は、某日午後6時20分頃、Xを殺すため、眠っているXの首を両手で強く絞め付け、Xがぐったりしたのを見て、乙はXが死亡したものと思い込んだ。しかし、この時点で、Xは、意識を失っただけで、実際には生きていた。
- 2 乙は、同日午後6時25分頃、Xの死体を付近の崖まで運んで崖下に落とすため、友人の甲を呼び出し、甲がXの背後から両脇に両手を回し乙がXの両足を持ってXの身体を抱え上げた。その際、まだ生きていたXの体が少し動いたためXのズボンのポケットからXの財布が床に落ち、これを見た甲は、Xがまだ生きているのではないかと考えたが、にわかに同財布内の現金が欲しくなり、乙に隠れて同財布内から現金3万円を抜き取って自分のズボンのポケットに入れ、同財布をXのポケットに戻した。しかし、乙は、Xがまだ生きていることにも、また甲がXの財布から現金3万円を抜き取ったことにも気づかなかった。
- 3 甲と乙は、同日午後7時頃、Xを上記崖まで運び、Xを崖下に落とした。乙は、Xが既に死んでいると軽信し続けていたが、この時点でもXはまだ生きており、上記崖から地面に落下した際、頭部等を地面に強く打ち付け、頭部外傷により即死した。

II 次の事例を読み、〔設問1〕および〔設問2〕に、解答しなさい（特別法違反の点は除く）。

【事例】

甲は覚醒剤取締法違反で勾留中であったところ、同房のAから「お前が俺に風邪薬だと言ってカプセルを渡して、俺は覚醒剤だと知らずに飲んだことにしてくれれば、ここから出られる。もし出られたら覚醒剤もやるし仕事も世話する」などと持ち掛けられた。甲はその件を承諾し、Aに有利になるようにと考えP検察庁検察官室において検察官Bに対して、Aに覚醒剤を譲り渡した事実はないのに「Aという男に覚醒剤のカプセルを1個あげました。Aは風邪をひいたというので、かなり効きますよと言つて風邪薬のような意味で渡したのです。」と供述した。

Bは甲の証言は重要だと考えて、その供述を録取し、読み聞かせたところ誤りのないことを申し立てたので甲に署名、捺印をさせて、供述調書を作成した。

捜査の結果、Aが釈放されることになった。

〔設問1〕 甲に証拠偽造罪が成立するか検討せよ。

〔設問2〕 甲に犯人隠避罪が成立するか検討せよ。